



都の西北

2020年(令和2年)10月1日

早稲田大学校友会 昭島稲門会会報 第10号



設立 35 周年を迎えた昭島稲門会

会長 梅田正宏

昭島稲門会は昭和 60 年(1985 年) 11 月に多摩地区 15 番目の稲門会として設立され、今年で 35 周年を迎えました。本会は、設立以来一貫して「政治団体や特定組織などには関係なく、校友の格式ばらない親しい交流の場」をモットーに活動を続けております。現在約 50 名の会員で活動しておりますが、本会の持ち味であるアットホームな雰囲気により多くの方々に体感していただきたく、校友の皆さんに改めて新規加入を呼びかけるものです。水と緑に恵まれたふるさと昭島に共に住むという縁と早稲田で学んだという縁を大切に、交流の輪を広げてみるのはいかがでしょうか。



田中新総長(中央)と会長(右)、幹事長(左)

本会では、次ページ以降に紹介するようにサークル活動はもとよりラグビー早明戦の応援や現役学生との交流など様々な活動を行っています。他の稲門会との交流も盛んで、多摩の各稲門会が一堂に会する三多摩支部大会には大学から総長も必ずお見えになり親しく懇談しながら大学の最新の情報に接することもできます。また、毎年



ラグビー早明戦の応援風景

11 月には大学及び近隣の 6 稲門会からご来賓を迎え定期総会を開催します。残念ながら本年の総会はコロナ禍のもと中止(書面審議)としますが、例年議案審議の後は会員あるいはゲストによる講演会などもあり、またご来賓の皆さんとの和気あいあいとした懇親会も楽しいものとなります。

今回の会報は設立 35 周年記念号ということで、昭島在住の校友約 500 名の皆さん全員に送らせていただきました。会報は写真を多く配置し、分かり易く、読み易くをモットーとしております。ぜひ最後までご覧いただき、本会の活動についてご理解を深めていただければ幸いです。

昭島稲門会の自慢の一つ。それは本会独自のシンボルキャラクターの存在です。角帽・学生服で万歳をしている「昭稲くん」は本会設立時に、早稲田出身で 4 コマ漫画「あさって君」などで有名な漫画家東海林さだお氏よりプレゼントされたオリジナルな作品です。早大漫画研究会の創設メンバーである当会前副会長の福田武さんが、漫研では東海林さだお氏の 1 年先輩に当たるという関係からお祝いに書いてくださったものですが、総会資料の表紙などを飾ってきました。なお福田武さんは最終ページを彩る楽しい 4 コマ漫画「WOB さん」の作者でもあります。



目次

P1…会長挨拶「設立 35 周年を迎えた昭島稲門会」
P2…サークル活動「カラオケ倶楽部・ゴルフコンペ」
P3…サークル活動「ハイキングサークル・シネマの会」
P4…会員だより「私の近況」

P5…こんな活動もしています
P6…写真で見る 35 年
P7…写真で見る 35 年
P8…入会ご案内・漫画 WOB さんほか

☆☆サークル活動の紹介☆☆

カラオケ倶楽部



今から約35年前、阿佐ヶ谷にスタジオ青蘭という音楽スタジオができました。大地主の方の大きな建物があり、その中に当時最新のカラオケ機器とスタジオ用の大きなスピーカー、それとピアノが設置されていました。迫

力のある大音響のなかで歌うカラオケは素晴らしいもので、生バンドをバックに歌う雰囲気がありました。その当時はカラオケを本格的に歌える場所は限られていましたので、そのスタジオにはプロの歌手が歌の練習によくきていたそうです。

通信カラオケの時代になっても、人の声を、音楽にのせて、スピーカーから出す、それがカラオケになります。人の音声はまずマイクロフォンで拾います。このマイクにはいろいろな種類がありますが、ここでは技術的なことは省き、その使い方に触れてみます。テレビで歌手が生で歌う場合は、マイクを口はかなり近づけて歌っているのがわかります。いわゆる口パクの場合は映像が主になるようで、マイクを持った手はかなり自由に動きます。マイクの感度にもよりますが、近づけて音圧を強くすると見違えるように音が変わります。また、マイクには指向性がありますので、口の方向とマイクの角度により音の拾い方が変わってきます。これもかなり大事なことになります。

さて、このカラオケの音声は最終的に電気信号から音にかわりスピーカーから出てきます。ほとんどのカラオケルームには、天井近くに小型スピーカーが2台~4台設置されていて、それなりに低域から高域までかなり良い音がしていますが、小型なので限界があるようです。実はスピーカーは、オーディオの世界では非常に重要な機器になります。スピーカーは大きさ、スピーカー自体のコーンの材質などにより音質が驚くほど変わりますので、昔から良い音を求めるにはアンプを買い替えるよりスピーカーを取り換えた方がよい、と言われるほどです。

過去のオーディオ全盛の時代には、国内に多数のスピーカーメーカーがありましたが、現在はごくわずかで、オーディオ店に並ぶスピーカーは海外の高額なもの

が多いようです。昭島市には、小型、超小型スピーカーや振動体の世界的に有名なフォスターというメーカーの本社があります。多くはOEM製品で世界の各種音響機器に広く組み込まれています。

昭島稲門会カラオケ倶楽部は、毎月最終日曜日9時~12時まで昭島駅北口のカラオケ店『まねきねこ』で開催しています。時節柄この数か月は開催を休止していますが、安心して自由に楽しくカラオケできる環境ができましたら再開しますので、是非参加してください。その際はマイクとスピーカーに注目してください。

ゴルフコンペ

昭島稲門会のゴルフコンペは、2005年岩崎前会長の呼びかけでスタートしました。途中メンバーの都合で3年ほど休止期間がありました



が、2014年に再開し、不測のことがない限り毎年春、秋の2回、山梨県大月市の花咲カントリークラブで開催しています。競技は新ペリア方式(上限カット無し)で行われますので、誰にでも優勝のチャンスがあります。花咲カントリークラブは高原の平坦なコースで、フェアウェイも広くOBもありません(1ペナルティまで)、又バンカーも少ないので、初心者の方でも、女性の方でも十分楽しむことができます。昭島からコースまでは車で45分~1時間。車数台で乗り合わせていきますので足の心配はありません。コンペのモットーは「明るく、楽しく、元気よく!!」ですからスコアはあまり気にせず、大自然の中を無心にボールを追いかけてみてはいかがでしょうか。



コンペ終了後はお風呂でサット汗を流し、道路が渋滞する前に昭島に戻って反省会です。競技結果の発表の後

はワイガヤガヤ、食事をしながら痛恨の1打やロングパットの自慢話など、皆話し出したら切りがありません。次回のコンペは来年5月に行いますので、奥様お誘いの上是非ご出席ください。

ハイキングサークル

昭島稲門会にとってのハイキングは設立当初より会員および家族との懇親の場として大きな位置付けにありました。私を含めて皆若かったので、名称も「家族ハイキング」として奥様やお子さんも参加しておりました。

実施年		場所と参加人数	懇親会場
2012年(平成24年)	春	昭和記念公園 9名	東中神「庄や」
	秋		
2013年(平成25年)	春	昭和記念公園 9名	東中神「千年の宴」
	秋	巾着田(埼玉県日高市) 9名	東中神「庄や」
2014年(平成26年)	春	小金井公園 15名	東中神「庄や」
	秋	御岳溪谷・澤乃井園 8名	澤乃井園
2015年(平成27年)	春	昭和記念公園 10名	東中神「庄や」
	秋	神代植物公園 6名	蕎麦屋「八起」
2016年(平成28年)	春	高巖寺(五日市) 9名	東中神「庄や」
	秋	六道山公園 9名	東中神「翠鳳楼」
2017年(平成29年)	春	多摩川堤防(福生永田橋～睦橋の花見) 15名	ビール小屋(石川酒造)
	秋	野火止用水 10名	東中神「翠鳳楼」
2018年(平成30年)	春	高尾山 7名	山頂ビアガーデン
	秋	多摩森林科学園&多摩御陵 9名	そば屋「むさしの庵」
2019年 (平成31年) (令和元年)	春	滝山城址 3名	城跡で缶ビール
	秋	トトロの森と狭山丘陵 4名	イタリアンレストラン「ナチュラル」
2020年(令和2年)		コロナ問題で春は中止	

その後暫く低迷期もありましたが、ハイキングサークルとして担当幹事を決めて年2回開催されるようになったのが2012年(平成24年)からなので、それ以降の行き先等を下表に整理してみました。

行き先としては最も手取り早いのが昭和記念公園です。四季折々に素晴らしい景観を楽しめる上、高齢になって足腰の弱くなった会員の皆様にも問題なく参加頂ける立地でもあります。

また近隣の名所巡りも魅力があり、現地にて素敵な場所を見つけて懇親会を行うのも魅力です。

以上、諸条件を勘案してハイキングを計画するのが担当幹事の腕の見せ所と言えます。コロナ問題が早く終息することを祈念しつつ次回のハイキングの計画を夢見ている昨今です。その節は是非皆さまのご参加をお願い申し上げます。



高尾山頂ビアガーデンにて

シネマの会



映画はかつて娯楽の王様でした。全国のスクリーン数は昭和35年が7451でピーク、平成5年に1,734で底を打ち、平成30年には3,561まで回復しているそうです。昭島市も映画館が無い時期が長く続きましたが、ムーヴィック昭島ができ、地の利を生かしてシネマの会を開催しています。ジャンルにはこだわり無く、その時々話題作を中心にしていますので、洋画あり邦画あり、たまにはアジア映画も見たりしています。時代背景も問いませんし、監督や出演者にも

こだわり無く映画を楽しむ会です。映画終了後には近隣の飲食店でチケットの半券で飲み物—例えば生ビール小ジョッキの無料サービスなども活用しています。

たまたま興味のある映画だから参加する、映画が大好き、映画館に行くのはこの会だけ、映画の後の談笑が楽しみ、などいろいろな動機の会員が日曜日の午後、くつろぎのひとときを持っています。

開催案内はメールでしています。

参加希望者には上映時間が確定後に集合時刻を連絡します。

大画面で良い音響の映画を楽しみましょう。日常生活を離れて見入る銀幕に繰り広げられるストーリーには感情移入も一入で、時としてエンド・マークに合わせて拍手が送られる事があるのも映画館ならではのご愛敬です。

阿島征夫さん

早稲田で学んだことをいまだ実践

1965年、政経学部山岡ゼミで「東南アジア開発・発展論」を議論し学びました。就職しいろいろと組織や仕事が替わりましたが、後半は国際関連の組織でアジアでのマングローブ植林、労組活動の支援、そして国際労働財団ではアジアで ODA による職場の安全教育、子供の教育支援と早稲田で学んだことの繋がりが退職するまでありました。ところが約 30 年ぶりに昭島に帰ってきて、6 年前から昭島ロータリークラブに入ってボランティア活動をしています。ここでも国際奉仕活動でラオス、ベトナム、カンボジアを支援するという巡り合わせです。ラオスでは子供を失明から救うことが喫緊の課題で、最新の医療器具を寄贈、ベトナムでは口唇裂口蓋裂など顔面領域の手術を必要とする子供たちに対して回復手術を提供する NPO「アジアの子供達にスマイルを」を支援に出かけました。今東南アジアの国々は素晴らしい発展を遂げていますが、日本がお手伝いすることがまだまだたくさんあります。(昭和 41 年 第一政経卒 写真: コロナ直前のイタリア・トスカーナで)



トナムでは口唇裂口蓋裂など顔面領域の手術を必要とする子供たちに対して回復手術を提供する

る NPO「アジアの子供達にスマイルを」を支援に出かけました。今東南アジアの国々は素晴らしい発展を遂げていますが、日本がお手伝いすることがまだまだたくさんあります。(昭和 41 年 第一政経卒 写真: コロナ直前のイタリア・トスカーナで)

三浦圭亮さん

稽古再開とオンライン飲み会と

新型コロナウイルスの影響で道場が閉鎖となり、3 月から全く弓を引けない状態が続いていましたが、6 月中ごろからようやく稽古を再開することができました。

入場人数制限や消毒・マスク着用の徹底など厳しい利用条件のもと、各自が細心の注意を払いながらということ以前と同じようにはいきません。加えて、試合や昇段審査などの年間行事は、実施の目処も立っていない状態です。それでも、じっくり自分を見直す契機ととらえるとともに、改めて弓が引ける喜びを噛みしめています。

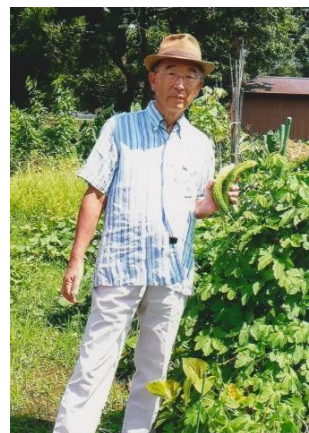


また、大学時代のサークル仲間と月に 1 度は集まって飲んでいましたが、ここ数か月はパソコンを使ったオンラインでの飲み会をしています。顔を合わせているのにお酒を飲む場所が各自の部屋というのは不思議なものですが、地方在住の友人たちとも時間さえ合えば気軽に飲めるのはいいですね。ただ、気心知れた仲間とは、やはり直接会いたいもの。1 日でも早く世の中が落ち着き、弓もお酒も気兼ねなく楽しめる日が来ることを願っています。(平成 26 年 教育卒)

田島洋一郎さん

野菜を子供や孫に贈る楽しみ

今年 1 月に母が亡くなりました。新型コロナ流行前の葬儀で、四十九日・初盆まで無事終わりました。相続で母の古い家を引き継ぎ、そこに独身時代に買い集めた小説全集が残っていました。4 月に 75 歳で後期高齢者医療となり医療費負担が軽減されました。糖尿病(病歴約 20 年)と心筋梗塞(手術後 2 年)により、新型コロナ弱者で 3 月以降、電車やバスを利用していません。



亡父が営んでいた農園を引き継いで 20 年余になります。今年もジャガイモ 1 年分や多くの夏野菜を収穫し、子供や孫に提供を続けております。昭和 20 年生まれで 8 月になると終戦報道が年齢とも重なり、平和を願う動機となります。私は商学部卒業で 66 歳まで経理中心のサラリーマンでした。これから小説の読破を目指し、安部公房作品や、世界文学ではフォークナーの「八月の光」を読むつもりです。コロナ禍ですが、生前整理のよい機会です。稲門会の皆様にお会いできる日を楽しみにしております。(昭和 44 年 商学卒)

こんな活動もしています!

昭島稲門会は、サークル活動以外にも大学や校友会活動への参加・協力、近隣稲門会との交流、更には地域福祉や地域の文化・スポーツの向上などに取り組んでいます。

大学、校友会との関わり

早稲田大学校友会は都道府県ごとに支部がありますが、東京都は23区支部と三多摩支部に分かれて活動しています。大学校友会の最大のイベントは例年10



月に開催される「稲門祭」で、都道府県支部も様々な形で参加しています。東京三多摩支部でも、毎年大隈庭園で催されるイベントに多摩の地酒を試飲できる「サロン・ド・三多摩」を出店し、多くの日本酒の愛好家で賑わいます。また、稲門祭では同時に記念品の販売が行われますが、この収益は学生の奨学金に充当されます。また、この記念品の購入金額に応じて福引に参加できますが、この福引抽選会は稲門祭の目玉事業の一つで、大型テレビをゲットした会員もいます。本会では記念品購入に協力するとともに、福引抽選の賞品に昭島の地下水を使い天然の藍で染めた藍染のハンカチーフを毎回20枚提供しています。

また大学をサポートするための寄付などにも協力していますが、今年は特にコロナ禍で困窮する学生への緊急支援として、支部からは約50万円、また本会としても5万円の寄付を行いました。

なお校友会からは毎年、各地域稲門会の組織強化のため補助金が交付され、本会でもこれを活用しています。

東京三多摩支部の活動

東京三多摩支部では、各稲門会相互の交流・親睦を目的として毎年支部大会を開催しています。支部大会には毎年総長がお見えになりますが、



去年は新たに就任された田中総長が足を運ばれ、「世界で輝くWASED

A」実現のためのビジョンや具体的な取り組みについて、40分以上に及んで詳しく紹介されました。大会議事の終了後には毎年楽しいイベントも企画されています。昨年の大会は昭島、青梅、羽村が主管しましたが、青梅稲門会の大倉会長のお嬢さんでニューヨークを拠点に活躍する国際的なジャズバイオリニスト、メグ・オオクラさんのコンサートを開催しました。素晴らしい演奏に感嘆、拍手の嵐でした。

近隣稲門会との交流

支部のなかでも近隣の立川、青梅、福生、羽村、武蔵村山、あきる野の稲門会とは、それぞれの総会に相互参加するほか、各稲門会が実施する事業に対して共催や後援をするなど、お互いの事業を通して幅広い交流があり、仲間の輪を広げています。また青梅線・五日市線・西武線沿線の校友を対象にした「稲酔会」というただひたすらに飲み語るといふ楽しい催しもあり、毎年多くの会員が参加しています。



地域への貢献

地域への貢献も本会の大切な事業の一つです。昭島市では「クリケットのまちづくり」を進めていますが、



本会ではこれに呼応し、毎年クリケットの大学選手権大会が市の陸上競技場で開催されることから応援に駆けつけています。ここ数年は早稲田大学チームが男女とも決勝に進むなどで応援にも熱が入りました。

また先に述べた稲門祭に提供している藍染のハンカチーフは、市が障害者の就労支援事業として取り組んでいるもので、これに協力するものです。また例年昭島市の「古式昭島能」に対する後援も行っており、昭島市の文化の向上への一助となっています。



写真で見る35年

昭島稲門会が設立



昭島稲門会が会員41名によって設立された昭和60年(1985年)。当時は、パソコンやウィンドウズ、携帯電話などの革新的技術が世に登場した時代でしたが、昭島市にとっても初めての高層住宅団地であるつつじが丘ハイツの完成、市の玄関口である昭島駅と駅前広場の整備など、その後の市の発展への足掛かりとなる時代でした。

懐かしいひとコマ



ご家族の皆さんも参加された青梅へのハイキング、皆さん本当にお若い H元(1989)



川越の喜多院と平林寺を散策した折の懐かしいワンショット H6(1994)



昭島稲門会が主管した三多摩支部大会、白井総長(当時)や北川市長(当時)のお姿も H10(1998)



まだカラオケ倶楽部ができる前でした。なかなか順番がきません H21(2009)

あなたも是非ご参加を

最近の活動あれこれ



毎年11月に開催される昭島稲門会定期総会。挨拶は梅田会長 R元(2019)



大隈講堂で開かれた東京三多摩支部大会。左から3人目鎌田総長(当時)と本会役員たち H29(2017)



毎年夏に開催される在校生とOBの交流会。今更ながら学生生活の今昔を感じます H27(2015)



毎年2月に行われる新春顔合わせ会。いつも校歌斉唱でお開きです H31(2019)



毎年12月第一日曜日の早明戦を有志で応援、最高に盛り上がります R元(2019)



市の陸上競技場で開催されるクリケット大学選手権で決勝進出の早稲田チームを応援 H30(2018)



ゴルフコンペ

カラオケ倶楽部



ハイキングサークル

シネマの会



お試し入会も大歓迎です!

お送りいたしました会報はいかがでしたでしょうか。少しでも興味を持っていただけるような活動が見つかりましたでしょうか。昭島稲門会には現在約50名の会員がおりますが、それぞれに興味関心のある活動に参加し、仲間の輪を広げています。

本会では、昭島市に在住・在勤、または昭島市にゆかりのある校友の新規会員を常時募集しています。卒業から間もない方、社会で活躍されている方、リタイア後何か地域と関わりを持ちたいとお考えの方、女性を含めて多くの方のご入会をお待ちしております。興味関心のある活動に一度試しに参加してみようというお試し入会も大歓迎です。年会費は3,000円(在勤者は半額)です。入会ご希望の方は、ホームページの「お問い合わせ」から、または下欄の稲門会幹事長山中皓博までお気軽にご連絡ください。

ホームページをリニューアルしました

昭島稲門会ではこの度ホームページをリニューアルしました。ブログ形式の簡素で見易いホームページとなっています。新たなURLは<http://waseda.akishima-tomonkai.tokyo/>です。「昭島稲門会」で検索すると、従前使用していたホームページがヒットする場合がありますが、現在削除手続き中ですので、新たなURLをご確認のうえアクセスされるようお願いいたします。またアクセス後「お気に入り」にご登録くだされば幸いです。



新しいホームページ画面

昭島稲門会が日頃どんな活動を行っているのか、それを知るには随時更新されるホームページが便利です。会報「都の西北」も創刊号から第10号までホームページからアクセスすればすべてPDFでご覧になれます。なお、今年度の会の活動は新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けています。予定した活動が急遽中止になったり、変更される場合が多くあります。これらについても随時ホームページでお知らせしています。予定の確認にぜひホームページをご活用ください。



▲ 漫画の作者は早大漫研OB

編集後記

コロナ禍のもとで編集会議の開催も思うにまかせず、メールでのやり取りが中心とならざるを得ませんでした。そんな中でも何とか校友の皆さんに手に取ってもらえる、読んでもらえる会報づくりをめざし、初稿・2稿・3稿・・・と稿を重ねてようやく発行にこぎつきました。この会報をとおして、校友の皆さんが本会の活動に少しでも興味関心を寄せて下されば編集委員としてこれに勝る喜びはありません。(佐藤清)

発行：早稲田大学校友会

東京三多摩支部昭島稲門会

会長：梅田 正宏 電話 541-6008

〒196-0031 福島町2-17-1

umeda-masahiro@luck.ocn.ne.jp

幹事長：山中 皓博 電話 090-9953-7404

〒196-0024 宮沢町2-14-39

yamanaka-akihiro@nifty.com